

R7 児童生徒岩石化石標本展 審査講評

令和7年度審査員

フォッサマグナミュージアム 郡山 鈴夏

大山 賢一

1 出品状況など

今年度の出品数は、小学校5件（5校）、中学校3件（3校）、高等学校1件（1校）でした。去年の5件よりも多く出品いただきました。

分類別では岩石が9件で、今年は化石の応募はありませんでした。岩石の標本は例年、糸魚川の石を使った標本が多いのですが、今年は中越や佐渡などほかの地域の石も多く見られ、大変うれしく思いました。糸魚川は岩石の種類が多く観察しやすいことや、調べるための教材が多くそろっていることから研究を始めやすい環境にあります。しかし、糸魚川に限らず、県内・県外それぞれの地域にも様々な岩石があり、その土地ごとに特色のある標本ができるのが魅力です。地域によって異なる石を見比べるのもとても面白く、審査をしても岩石の多様性を感じることができました。

2 岩石標本について

今年はユニークな作品が展覧され、審査をしながら改めて「岩石標本をなぜ作るのか」を考えさせられました。

標本づくりの一番の目的は、採取した岩石を安全に、長期間保管することです。そのためには、岩石の大きさや形に合った標本箱を選ぶことが大切です。標本箱は「保管しやすく」「後から見返したときに分かりやすい」ことを意識して作りましょう。家庭で保管するときにフィルムなどでふたをするのは良い工夫ですが、岩石は手に取って観察できることも魅力の一つです。岩石標本としては後から岩石を取り出せる作りのほうが適しています。ここは植物や昆虫の標本と大きく異なる点です。

また、標本づくりは単に集めるだけではなく、観察・比較・記録を通じて石の特徴を理解するための活動でもあります。そのために欠かせないのが標本ラベルです。標本ラベルには「いつ・どこで・誰が」採取したかを明記しましょう。そして、観察をもとに岩石名（同定結果）を書きましょう。

標本としてふさわしい岩石は、風化や変質が少なく、その岩石らしさがよくわかるものです。また、ケースに対して岩石が大きすぎたり小さすぎたりするものも見られました。保管と観察の両方に適した大きさを選ぶことも大切です。

岩石を研究テーマに選んだ理由として、博物館に訪れて興味をもった、友人や兄弟から影響を受けたなど様々ありました。研究の動機から研究後の感想など、「どうしてこの標本づくりを行ったのか」「標本づくりを通じて気付いたこと」がレポートから読み取れると、標本がさらに価値あるものになるでしょう。

3 よりよい作品を目指して

標本づくりを通じて「石の特徴をよく見て理解する」ために大切なのが、レポートのまとめ方です。

レポートは自分の研究の記録です。きっかけ、やったこと、気づいたこと、調べたことなどを自分の言葉で書いてみましょう。その中で、見て分かったこと（形・色・手触りなど）、人から聞いたこと、本や資料で調べたこと、そして本や資料で調べたら違ったことなどを分けて書くと、読みやすくなります。「見て分かったこと」と「聞いたこと・調べたこと」を混ぜないようにするのがコツです。石を見ただけでは「どこでできたか」や「何年前の石か」はわかりません。まずは自分の目で見て、気づいたことを大切にしましょう。

観察で気づいたことを書き記すことは、岩石の名前を正しく知るための第一歩です。この観察がしっかりできていないと、岩石名を間違えてしまうこともあります。また、今作っている標本や記録は、何年か経って見返したときに貴重な資料になります。その時に標本を補って説明してくれるのが、レポートです。だからこそ、ていねいにまとめることが大切です。

次に、標本箱は岩石が見つらかったり、順番がバラバラだったりすると、せっかくの努力が伝わりません。ラベルの文字は読みやすく、きれいにそろえましょう。石の並べ方にもルールをつけ、例えば色や種類、産地ごとに並べると見やすくなります。ケースに対して石の大きさがあっているかも確認しましょう。表面が風化しているものは、割って新鮮な面を出すと、観察しやすくなります。

きちんと整理された標本箱は、見た人にも「この人は良く観察しているな」と伝わります。標本づくりは、見て学び、考えてまとめる研究の第一歩です。

4 おわりに

今年は、例年にも増していろいろな地域の標本が見られました。同じ県内でも場所によって異なる種類の石が見られ、岩石の多様さと面白さを改めて感じました。

一方で、石を採取するときには「とってよい場所かどうか」を調べることも大切です。国立公園や天然記念物に指定されている場所、地域で保護されている場所などでは岩石を持ち帰ることができません。海岸や川の石など自然に動く石の場合は採取が法律で禁止されていることは少ないですが、地域によってはルールを定めているところもあります。その土地の自然や人々の気持ちを大切にしながら、調べて採取するようにしましょう。

岩石標本づくりは、石を集めて終わりではありません。見て、考えて、まとめることの積み重ねが、自然の仕組みを理解することにもつながっていきます。そして、自分が作った標本やレポートには、未来の自分や他の人が学ぶための「小さな資料」になります。

これからも身近な自然に目を向け、観察を通してたくさんの発見をしていってください。来年もたくさんの岩石や化石あるいは砂などの標本と出会えることを楽しみにしています。